

2009(平成21)年度 常磐短期大学自己点検・評価事項に関する報告 目次

〈 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標〉	1
〈 教育の内容〉	2
〈 教育の実施体制〉	6
〈 教育目標の達成度と教育の効果〉	13
〈 学生支援〉	17
〈 研究〉	20
〈 社会的活動〉	21
〈 管理運営〉	23
〈 財務〉	27
〈 改革・改善〉	29

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	副学長・A L O	報告者	副学長
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標		
評価項目	建学の精神、教育理念について/教育目的、教育目標について/定期的な点検について		
点検・評価報告	1. 本年度も引き続き、「実学を重んじ、真摯な態度を身に付けた人間を育てる」という建学の精神のもと「自立、創造、真摯」という教育理念を現代教養講座の「心の充実」という授業で学生たちに伝えてきた。ここでは、本学独自の共通の教科書を作成し、これに基づいて各学科の教育目的を加味しながら、建学の精神と教育理念の現代的意味を考えさせる授業を展開している。		
	2. 各学科ともオリエンテーションやガイダンスにおいて建学の精神や教育理念を周知している。さらに、月一回開催される学科会議で問題のある学生の状況を話し合いながら、各学科としての教育目的、教育目標を確認している。		
	3. 本年度は各学科ともカリキュラムの見直しをおこなった。その見直しは建学の精神や教育理念の現代的意味を再認識し、教育目的や教育目標の現実を確認しながらおこなわれた。		
今後の方針・対策・規程化 etc	1. 建学の精神、教育理念、教育目的、教育目標は各学科会議、教授会で学生指導、カリキュラム改正などの際に日常的に確認されるとともに、その基準となっている。今後ともこのような日常的で、実質的な点検を行っていくことが重要であると考えている。		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告					
委員会名 / 学科名	キャリア教養学科	報告者	キャリア教養学科長		
評価領域	II 教育の内容				
評価項目	教育課程について / 授業内容・教育方法について / 教育改善への努力について / 特記事項				
点検・評価報告	<ul style="list-style-type: none"> ・2007 年度に行った生活科学科生活科学専攻との一部カリキュラム統合の見直し行う。 ・「キャリア教養」「ビジネス経営」「オフィス情報」3 コースの特徴をそれぞれ明らかにするために科目の内容と科目名を見直す。 ・1 年次春semesterで入門のための講義を多く設置し、専門科目での演習との連携を強化する。 ・学生の履修上の利便を図るため、時代の変化に伴う情報関係科目の見直しを行った (2009 年 7 月 7 日 教務委員会)。 ・FD 研究会で高等教育での英語教育のあり方とこれからを模索。 ・インターンシップ実施前後の学内指導と報告会 (学部と共同) を行う。 ・「課題研究」と学生指導の連携。 ・テーブル・マナーの講習を和食・洋食ともに行う。 				
	今後の方針・対策・規程化	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年次春から 2 年次秋semesterまでの連続的学習を目指す。 ・2 年次秋semesterまで集中して学習することを目標とする。 ・受講者の少ない科目は教科課程から削除する。 ・2010 年度から「秘書士 (国際秘書)」の資格取得を新たに設置。それに伴い、学則変更 (「国際秘書概論」の新規追加) および資格を得るための履修規程変更の手続きを行う。 ・「国際秘書概論」以外の新科目は設置しない。 ・2010 年度からの新生を対象にカリキュラム改正を行う。 			
		etc			

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	幼児教育保育学科	報告者	幼児教育保育学科長
評価領域	教育の内容		
評価項目	教育課程について / 授業内容・方法について / 授業改善への努力について		
点検・評価報告	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科の学生は、免許・資格を取得するという目的意識が明確なため、大多数の学生が意欲的に勉学に励んでいる。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許施行規則の一部改正に伴う学則変更として、科目「教職実践演習」から「保育・教職実践演習」への変更新設を行った。併せて、科目名称変更等に伴う履修規程の一部変更手続きも済ませている。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師との意見交換の場が少ないと思われる。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・2009年度も、就職率がほぼ100%となり、本学科学生の評価は良い。 		
今後の方針・対策・規程化 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら積極的に学ぶという授業の進め方、少数の勉学意欲の少ない学生への意欲を高める方法など、授業内容、方法について検討したい。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・学外での評価の良さを維持するため、さらなる検討を進めたい。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師との意見交換の場を増やすことが必要と思われる。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年度 現代教養講座「心の充実」第11～13回において、社会との関わり ゆうあいピック参加 を実施する。 		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	現代教養講座委員会	報告者	現代教養講座委員会委員長
評価領域	教育の内容		
評価項目	教育課程について / 授業内容・方法について / 授業改善への努力について		
点検 ・ 評価 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業科目の区分「社会と人間」における授業科目の展開数が少なくなり、学生の選択の幅がせばまった。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代教養講座の科目設定は、春・秋セメともに(火・1)と(木・5)に固定されているが、今年度は秋セメの(火・1)で「思想と文化」区分に属する授業が配置できなかった。学生の履修に当たっては、何ら支障はなかったが、望ましいことではなかった。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ FD 委員会を通じて、相互の授業参観による交流が進められた。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代教養講座委員会を開催して、授業全般の見直しを検討したが、幅広い教養教育のためには、現行の四区分体制が適切だとの結論に達し、そのままそれを継続することになった。 		
今後の方針・ 対策・ 規程化 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・ 突発的にもしくは不可避免的に科目担当者が決定されない場合に対処するためには、授業科目の展開に若干の工夫が必要である。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の授業科目名の追加もしくはその変更が求められる。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業科目の開講数を増やしたい。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任による科目担当数を増やし、また非常勤講師によって授業を担当してもらうことにしたい。 		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	副学長・ALO	報告者	副学長
評価領域	教育の内容		
評価項目	教育改善の努力について		
点検・評価報告	各学科の教育改善については前述したとおりであるが、本学全体としてのFD活動について触れておく。本年度も例年通りFD研究会と「FD研修(公開授業)」をおこなった。		
	1. FD研究会は、第1回は「教養英語と文学」(村松俊子教授、9月17日)、第2回は「これからの幼児教育について」(山路純子教授、2月10日)のテーマでおこなわれた。それぞれ28名の参加があった。		
	2. FD研修(公開授業)については11月30日~12月11日までの2週間おこなわれた。研修授業で学んだ点について報告書を副学長に提出し、FD委員会でまとめをおこない、教授会で報告するというサイクルで実施した。ほとんどの教員が研修をおこなった。		
今後の方針・対策・規程化 etc	1. 2008年に実施された短期大学基準協会による機関別評価において「研修授業」の実施が最終的には個人の改善、改革に任されており、より実効性を高める取り組みが望まれるとの指摘があった。この指摘を受け、本年度は教授会での報告を事例を含め、丁寧におこなった。今後もFD研修(公開授業)の個人へのフィードバックを工夫していきたい。また、実施時期(本年度は秋semester)が固定すると、参観授業も固定するため、実施時期の検討が必要である。		
	2. FD研修の内容について法人ならびにステークホルダーとの共有の必要性が議論され、印刷物等に行うことなどが検討されている。		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	副学長・ALO	報告者	副学長
評価領域	教育の実施体制		
評価項目	教員組織について		
点検・評価報告	1. 教員の採用、昇格が規程にしたがって実施され、2009 年度よりこれに基づき教育、研究がおこなわれた。		

今後の方針・対策・規程化 etc	1. 今後も規程にそって昇格、採用をおこなっていく。		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名	事務系自己点検・評価実施委員会	報告者	施設設備課統括、情報メディアセンター統括
評価領域	教育の実施体制		
評価項目	教育環境について / 図書館・学習資源センター等 (以下、「図書館等」という。) について		
点検・評価報告	【教育環境について】		
	2009 (平成 21)年度は、キャリア教養学科 (収容定員 280 名) 幼児教育保育学科 (同 280 名) の 2 学科収容定員 560 名になったため、短期大学設置基準の校舎基準面積が 6,200 m ² から 4,650 m ² に変更となり、校地基準面積も 6,800 m ² から 5,600 m ² に変更となった。		
	教育環境整備については、現状特に大きな懸案事項はないが、既存施設の修繕等は随時行っている。例えば、大学との共有施設である L 棟食堂の床が剥がれて歩きにくかったため、床を貼りかえて学生生活環境の向上を図った。		
	【図書館・学習資源センター等 (以下、「図書館等」という。) について】		
	別掲。		
今後の方針・対策・規程化 etc	【教育環境について】		
	前述のとおり、短大の施設には大きな問題はないので、細かな修繕等は発生時に都度対応する。		
	2 年毎に行われる「学生満足度調査」で出された学生の要望について、実行可能な事案には対応する。		
	【図書館・学習資源センター等 (以下、「図書館等」という。) について】		
	別掲。		

別掲

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という。）について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

施設（配置図・座席数）

情報メディアセンターの建物は情報メディアセンター（電算システム部門、メディアセンター（AVギャラリー）部門）と情報メディアセンター別館（図書資料部門）からなる。情報メディアセンター別館（図書資料部門）は、1995（平成7）年に竣工し、鉄筋コンクリート造地下1階地上5階建、建築面積約1,763平方メートル、延床面積約5,705平方メートルの建物で、そのうち図書資料部門が利用している面積は3,874平方メートルである（施設の概要を下記に示す）。図書収蔵能力は250,000冊となっている。閲覧フロアは地下階、2階、3階、共同学習室は地下1階に2室、2階と3階に1室ずつ設けられ、資料の約9割が開架に配架されている。

総延面積：3,874 m²（情報メディアセンター別館のみ）

<サービス・スペース>

閲覧スペース：1,187 m²

視聴覚スペース：397 m²（メディアセンターに設置）

情報端末スペース：45 m²

<管理スペース>

書庫：1,382 m²

事務スペース：183 m²

総閲覧座席表：470席

<書架収容力>

棚板総延長：8,280 m

配置図については本章末尾の資料1、2、3に示す。

年間図書予算（短大のみ）

（単位：円）

	2006（平成18年度）	2007（平成19年度）	2008（平成20年度）	2009（平成21年度）
図書購入費	9,000,000	8,700,000	7,180,000	5,822,700
雑誌購入費	4,000,000	4,400,000	4,000,000	3,432,000

購入図書選定について

資料の購入に関し、各学部、学科の専門的な図書は教員の希望を取り入れ、学科に依嘱した選書委員が取り纏めを行って選書、購入している。このため学部や学科のカリキュラム、授業内容に沿った蔵書内容となっている。学部、学科に属さない分野や教養的色彩の濃い内容の資料については専任の司書が中心となって選書・購入している。また、学生等からの購入希望を取り入れる希望図書制度を設けており、随時学生のニーズを反映して資料を購入している。

図書等廃棄について

5年に一度程度、紛失したものについて除籍を行っている。

司書数

司書は9人である。(専任職員4名、非常勤職員5名)

情報化の進捗状況等

業務コンピュータを運用開始したのは1989年4月である。その後1995年からインターネットを利用したOPAC(蔵書検索)サービスの開始、ウェブページによる図書館の情報提供を開始した。またインターネットを利用したデータベース利用サービスも行っている。

- <参考資料> 10「学校法人常磐大学管理運営規程」参照
 11「常磐大学情報メディアセンターの組織および運営に関する規程」参照
 12「常磐大学物件の調達・管理取扱要領」参照
 13「資料の財産管理上の取扱基準」参照
 14「常磐大学総合情報センター資料利用規程」参照

(2) 図書館に備えられている蔵書数(和書、洋書、学術雑誌数、AV資料数等)を下表を例に作成して下さい。

図書館蔵書数一覧

平成21年5月1日現在

(大学全学(常磐大学と共同))

区分	和書	洋書	学術雑誌	AV資料
冊(種)	230,576冊	70,903冊	4,999種	17,484点

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者(図書館長等)が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

授業に関連する参考図書及び一般図書の整備

資料の購入に関し、各学部、学科の専門的な図書は教員の希望を取り入れ、学科に依嘱した選書委員が取り纏めを行って選書、購入している。このため学部や学科のカリキュラム、授業内容に沿

った蔵書内容となっている。また、学部、学科に属さない分野や教養的色彩の濃い内容の一般図書については専任の司書が中心となって選書・購入している。また、学生等からの購入希望を取り入れる希望図書制度を設けており、随時学生のニーズを反映して資料を購入している。

図書館等利用状況

本センターの有効活用を目的にオリエンテーション時に図書フロア利用案内を行い、また授業を利用して、蔵書検索のガイダンスを行っている。

2008年度の短大生の利用は 貸出人数：793名、貸出冊数：1,399冊である。

総括

近年のIT技術の発達により、レポート等の調査等はインターネット上のコンテンツを利用する傾向が強くなっている。コンテンツの信頼度を高め、また調査対象に多方面からアプローチするためにも、所蔵資料内容の充実を図り、一層授業・研究に密接した図書フロア運営を図る必要がある。

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

学内外の情報発信

インターネットを利用してOPAC検索サービスが学内外から利用することができる。また、本センターウェブページより、最新のお知らせ、開館カレンダー、フロアガイド等情報を掲載している。携帯電話からでも利用できるよう、携帯電話用OPAC、お知らせ用ウェブページを設置している。

他の図書館との連携

相互協力業務として他大学図書館、公立図書館、国会図書館等と連携をとっている。2008年度の実績として、文献複写依頼：370件、文献複写受付：121件、図書貸借依頼：60件、図書貸借受付：15件であった。

現在の図書館活動

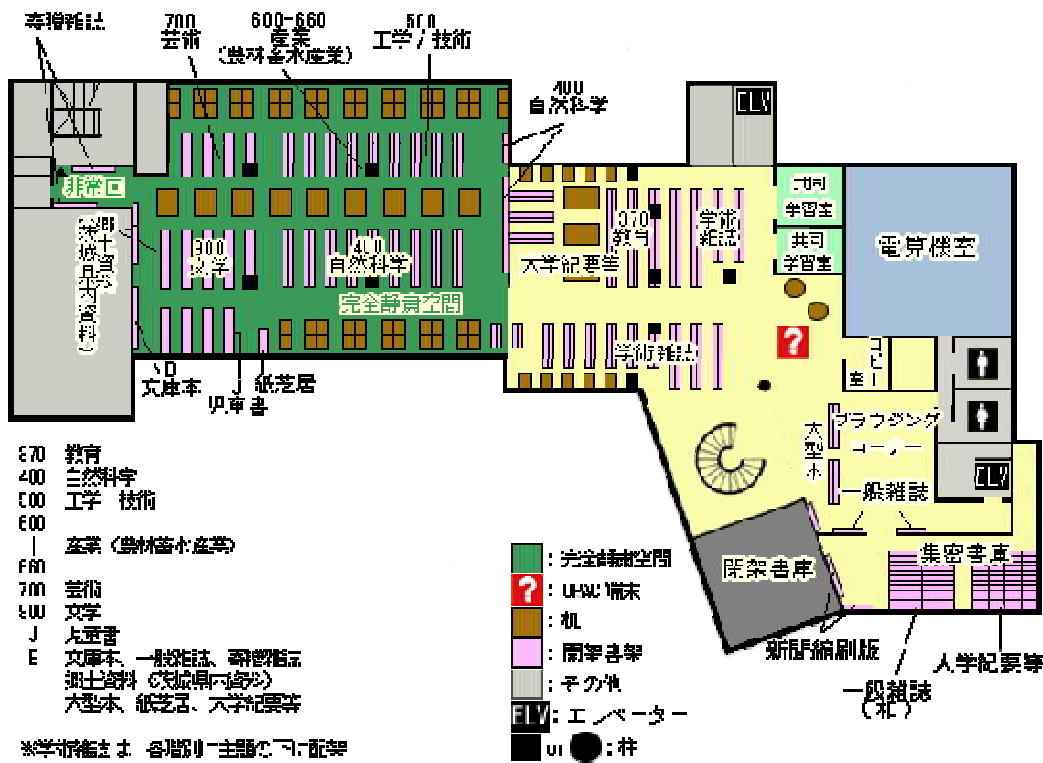
よりよい学習、調査環境を提供するため、卒業論文や試験準備期間を中心に開館時間の延長（平日21:00まで、土日17:00まで）を行っている。

新着の図書をわかりやすくインフォメーションするために新着コーナーを設置し図書利用の促進、及びデータベース・電子ジャーナルの充実・利用促進を図っている。

総括

利用しやすい図書サービスを目指し活動を行ってきたが、今後卒業生や地域住民の方々へのサービスを行っていききたい。また市内の図書館と連携し、新たなサービスを開発するとともに、専門図書館としての蔵書の充実を図っていききたい。

資料1. 資料フロア配置図 (地下1階)



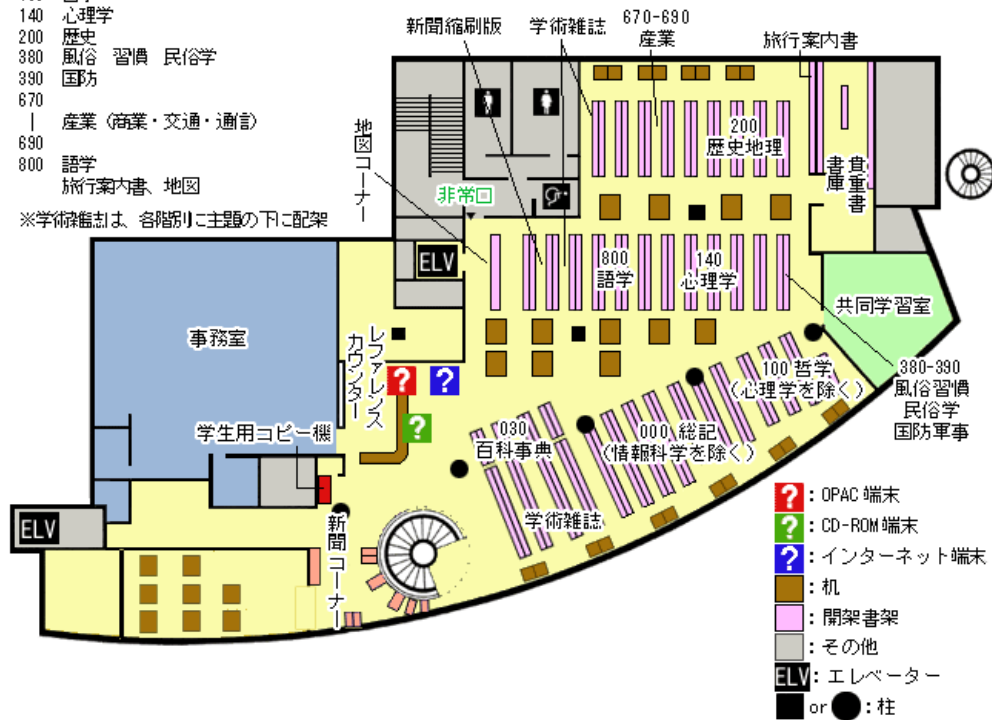
資料2. 資料フロア配置図 (2階)



資料3. 資料フロア配置図 (3階)

- 000 総記 (007 情報科学を除く)
- 030 百科事典
- 100 哲学
- 140 心理学
- 200 歴史
- 380 風俗 習慣 民俗学
- 390 国防
- 670 産業 (商業・交通・通信)
- 690 歴史地理
- 800 語学
- 旅行案内書、地図

※学術雑誌は、各階別に主題の下に配架



2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	キャリア教養学科	報告者	キャリア教養学科長
評価領域	IV 教育目標の達成度と教育の効果		
評価項目	単位認定について / 授業に対する学生の満足度について / 退学・休学、留年等の状況について / 資格取得の取り組みについて / 学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について / 特記事項		
点検・評価報告	・ 単位認定は出席を大前提とした上で、授業の成果を踏まえておこなっている。		
	・ 全学生を対象にキャリア教養学科独自のアンケートを春・秋semester終了時に行うことによって、学生の各授業科目への満足度を把握している。		
	・ 設置希望の科目等を把握している。		
	・ 各授業科目においてどのような点が理解困難であるかを把握している。		
	・ 退学を希望する学生にはその後の進路を確認している。		
	・ 進学希望者は早めの申し出を促し、その意志を確かめている。		
	・ 留年者に対しては、指導教員が出席・単位取得状況を把握している。		
	・ 国際学部と協力体制を整え、新たに「秘書士(国際秘書)」の資格取得を設けた。		
	・ 卒業生を授業のゲストスピーカーとして招聘して、就職先や卒業後の社会からの評価を学生に紹介している。		
今後の方針・対策・規程化 etc	・ 様々な問題を抱え、欠席が続く学生へのさらなる教員の関心と配慮を高める。		
	・ 学科独自のアンケート結果を踏まえ、キャリア教養学科に学生が求めるものを把握する。		
	・ コースの専門性と基礎教養との連携を深める。		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	幼児教育保育学科	報告者	幼児教育保育学科長
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果		
評価項目	単位認定について / 授業に対する学生の満足度について / 退学、休学、留年等の状況について / 資格取得の取組みについて / 学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について		
点検・評価報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生生活満足度調査の結果に配慮して、各教員とも授業内容を検討している。 ・ 退学者、休学者は、少ないが、いろいろな問題を抱えている学生へのきめ細かい指導を、学科を通して行っている。 ・ 卒業生に対する評価は、在学生の保育実習、幼稚園教育実習の際に把握するよう努めている。 ・ 毎年度、ホームカミングデーを実施している。2009 年度も 12 月に実施し、卒業生との接触を図っている。 		
今後の方針・対策・規程化 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員と学生との交流の場をさらに増やすべく、検討している。 ・ 1 年次学生と 2 年次学生との交流を図るべく、2010 年度は、ティーパーティ形式の交流会を計画している。 ・ 学生の精神面を強くさせるための方法については、さらに検討中である。 		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	現代教養講座委員会	報告者	現代教養講座委員会委員長
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果		
評価項目	単位認定について / 授業に対する学生の満足度について		
点 検 ・ 評 価 報 告	・ 学生はほぼ全員、現代教養講座の単位を一年次に履修している。		
	・ 現代教養講座のみ単位が取れずに留年する事例はない。		
	・ 学生の授業に対する満足度調査によれば、「強く満足」と「やや満足」を併せると、約64.3%であり、また「あまり満足しない、全く満足しない」は約10.5%である。授業に対して一応は満足しているといえる。		
	・ 「心の充実」が多様な内容展開によって新一年生により刺激を与えている。		
	・ 担当教員の工夫で、学生の興味や関心を喚起し、授業内容の理解を促進している。		
今 後 の 方 針 ・ 対 策 ・ 規 程 化 etc	・ 授業に対する学生の満足度調査の結果を踏まえ、例えば、講義形式の授業に演習の要素を取り入れるなど、授業の方法や内容を工夫し、学生の側からの反応や積極的参加を求めながら、なお一層の授業方法の改善に努める。		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	副学長・A L O	報告者	副学長
評価領域	教育目標の達成度		
評価項目	学生による卒業後の評価/卒業生に対する評価について		
点検・評価報告	1. 2008 年度の就職状況は短大全体としては約 98%と良好であり、ほぼ学習した分野での就職であった。2009 年度も不況にもかかわらず、短大全体としては 90%を超える状況にあり、昨年度同様、学習した分野での就職先である。		
	2. 就職先からの卒業生の評価については事業所との日常的な接触やインターンシップ先や実習先への見回りそして年一度実施される事業所との懇親会(常磐フォーラム)において聴取している。		
	3. 2009 年度ホームカミングデイを 100 周年にあわせて実施し、卒業生との交流を深めた。		
今後の方針・対策・規程化 etc	1. 卒業生との接触について各学科でバラツキがあるが、各学科の就職先の性格などに応じてそれにふさわしい接触方法を考えていく。		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	副学長・A L O	報告者	副学長
評価領域	学生支援		
評価項目	入学に関する支援/進路支援		
点検・評価報告	1. 入学前教育を「社説課題」、「学科ごとの課題」等により実施し、本年度は学生として十分に対応していけるための基礎学力の充実に力点を置いた内容となっている。		
	2. 就職については学生支援センター・キャリア支援担当と指導教員との良好なコミュニケーションのもとおこなわれており、前述したような実績を達成している。		
	3. 経済支援についてはより実情に合った特待生制度や奨学制度の改変をおこなっている。		
今後の方針・対策・規程化 etc	1. 就職環境が厳しい折、これに適応的なより細やかな指導が求められる。		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名	教務委員会	報告者	教務委員会委員長
評価領域	学生支援		
評価項目	入学に対する支援について / 学習支援について		
点検・評価報告	1. 入学時オリエンテーション(春セメスター) 秋セメスター開始時のオリエンテーションにおいて、履修指導を行った。主に「履修案内」「講義要綱」にて説明指導を行った。2年生は各セメスター当初に実施。		
	2. 基礎学力については、入学前教育の充実と、各学科 キャリア教養学科(キャリアガイダンス,) 幼児教育保育学科(心の充実、実習事前指導における文書作成指導)ともに工夫をして行った。		
	3. 指導教員制での各個クラスで面談指導を実施した。また、学科運営会議における教員の情報交換および全体的対応を組織的に行い、指導した。		
	4. キャリア・イングリッシュの“目的別クラス編成”、平面美術構成、器楽(ピアノ)等、学科の特色上での対応を行った。		
今後の方針・対策・規程化 etc	1. 時代の変化に伴う情報教育の見直しや、「教育職員免許法施行規則の一部改正」に伴う新設科目の充実が必要である。		
	2. 講義要綱(シラバス)のより丁寧かつ正確な情報化と指導とを必要とする。		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名	全学学生支援委員会	報告者	全学学生支援委員会委員長
評価領域	学生支援		
評価項目	学生生活支援体制について		
点検・評価報告	<ul style="list-style-type: none"> ・校内における喫煙マナー全般の向上運動（TOKIWA クリーン週間）を、4月、5月、10月の3回にわたって実施した。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・5月30日、茜梅寮で防災訓練を実施。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・9月ごろからインフルエンザが学生の間を広まったが、適切に対処して、休校措置をするほどの深刻にはならなかった。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング体制では、専任スタッフ1名減の4名になったが、その代わり非常勤スタッフを1名から2名に増やした。今年度の相談件数は6件（16回）であった。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生表彰の対象者は短大において今年度2名であった。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「メンタルヘルス支援WG」「キャリア支援・資格取得支援WG」「課外活動支援WG」が設置された。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年度から学生全員、「学生教育研究災害障害保険付帯賠償責任保険」にさせることになった。 		
今後の方針・対策・規程化 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のチャレンジ精神を向上させることが課題である。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・大学構内での学生の活性化が必要である。 		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	副学長・A L O	報告者	副学長
評価領域	研究		
評価項目	教員の研究活全般/研究のための条件		
点検・評価報告	1. 2008 年度に実施された短期大学基準協会による機関評価において教員間の研究業績のばらつきが指摘されたが、本年度は科学研究費の「若手研究(スタートアップ)」に採択されたり、「基盤研究(B)」の研究分担者になったりと、若手研究者の活躍がみられた。		
	2. そのほか約半数の教員が外部の学会や紀要などで報告し、活発な研究がおこなわれていることがみてとれる。		
今後の方針・対策・規程化 etc	1. 今後も活発な研究活動の活性化の傾向をつづけ、研究の雰囲気や学内に醸成し、研究の教員間のバラツキを縮小していく方針である。		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	副学長・A L O	報告者	副学長
評価領域	社会的活動		
評価項目	社会的活動の取り組みについて		
点検・評価報告	1. 本学は教育理念と教育方針に基づきつつ、「社会適応力」、「社会活動力」を培うことを重要な教育目標としている。2009年度は例年行っている「茨城県ゆうあいスポーツ大会へのボランティアとしての参加のほか、地域センターとの連携のもと、キャリア教養学科の学生も地域づくりのNPO活動にも学生は参加し、公益活動への学生の参加がひろがった。		
今後の方針・対策・規程化 etc	1. 地域との連携をさらに深め、学生の課外活動の場を広げていくことが重要である。		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名	事務系自己点検・評価実施委員会	報告者	エクステンションセンター統括
評価領域	社会的活動		
評価項目	社会的活動の取り組み		
点検・評価報告	エクステンションセンターで行われている公開講座については、年間100講座程開講している。短期大学は、卒業生のスキルアップ、リカレント教育を目的とした「管理栄養士国家試験準備講座」、「幼稚園教諭・保育士のためのリカレント講座」を実施している。この講座は、卒業生をはじめ一般人対象に行っており、好評を得ている。		
	今年度の「幼稚園教諭・保育士のためのリカレント講座」は予定人数に達しなかったことで、中止とした。エクステンションセンターの講座については、教養講座、語学講座、パソコン講座、小中高生講座、職業人講座、資格取得対策講座を実施している。		
	特に教養講座については、人気講座が多く水戸学、心理学、デジタルカメラなどはキャンセル待ちがでる状況だった。そのほか、資格取得対策講座は、本学の学生を対象としており、就職が厳しい状況の中で資格を取得しようという学生が多く、医療事務準備講座、秘書検定対策講座、ホームヘルパー講座などが人気を集めている。		
今後の方針・対策・規程化 etc	「幼稚園教諭・保育士のためのリカレント講座」については、開講できるように告知の仕方を考える。また、教養講座はさらに受講生が多くなるよう、ニーズに合った新企画を検討する。資格取得対策講座は、本学学生が就職に結びつくような資格取得の講座や就職試験で必要な基礎学力講座などを強化していく。		
	茨城県教育委員会と常磐大学との高大連携事業については、高校生英語サマーセミナーを実施している。今後は、高校生のニーズに合った企画を複数展開し、多くの高校生に参加してもらい、本学志願に結びつけたい。オープンキャンパスとの連動も展開していきたい。		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名 / 学科名	副学長・ALO	報告者	副学長
評価領域	管理運営		
評価項目	教授会等の運営について		
点 検 ・ 評 価 報 告	1. 学長は教育・研究についての方針を示し、各委員会はこれに基づき原案を作成する。		
	この原案が教授会において活発に議論されている。		

今 後 の 方 針 ・ 対 策 ・ 規 程 化 etc	1. 今後とも活発な議論がなされるよう、リーダーシップを発揮する必要がある。		

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名	事務系自己点検・評価実施委員会	報告者	理事長室長、総務課統括、人事給与課統括
評価領域	管理運営		
評価項目	法人組織の管理運営体制について / 事務組織について / 人事管理について / 特記事項について		
点 検 ・ 評 価 報 告	【法人組織の管理運営体制について】		
	・ 理事長は、理事長懇談会を開催するなど広く関係教職員との意思疎通を図るとともに、理事会や常任理事会等を通じて適正かつ適切にリーダーシップを発揮し、本学の運営に関与している。		
	・ 決算に関する理事会の運営方法の改善を図った(2008.5-)。また、2008年5月に理事定数の上限を1名増員したが、欠員は生じていない。		
	・ 常任理事会は、関連規程に則り、適正に運営されている。		
	・ 2008年12月に監査室を設置し、監事の業務支援・内部監査に関する機能の強化を図った。(詳細は、財務【特記事項について】(1)を参照。)		
	・ 決算に関する評議員会の運営方法の改善を図った(2008.5-)。また、2008年5月に評議員定数の上限を2名増員したが、欠員は生じていない。		
	・ 2008年度より着手した学内諸規程のデータベース化は、2009年度に完了している。		
	【事務組織について】		
	・ 2008年12月に、管理運営にかかわる部署について、組織の一部改編を行った。		
	・ 地域連携センター、教育実践研究所についても、規程が整備されている。		
	・ 現行の組織機構に即して効率的に決裁処理が行われるよう、2009年1月に起案書様式の一部を改変した。また2006年度に導入した事務系基幹システム等については随時改善を図り事務処理機能の向上に努めている。		
	・ 教育システムの抜本的な改革に向けたプロジェクト(全学教育システム改革会議)を設置し、教員と事務職員とが一丸となり学校改革に取り組んでいる。また、2006年度に実施した教学事務組織の改編を経て、2008年度に実施した学生生活満足度調査では、総じて高い水準の評価を得ている。		
	・ 2009年度における事務組織のスタッフディベロップメントについては、新規採用者を対象とした現場研修、私立大学連盟等が主催する大学職員に特化した研修会への派遣、水戸夕学五十講を研修に位置づけ、参加を奨励するなどして、職員の資質向上に努めた。		

	<p>・研修制度充実の観点から、国際的な視野の涵養を目的として、事務職員の海外研修制度の創設に着手している。</p> <p>【人事管理について】</p> <p>・教職員の就業について：</p> <p>教職員の就業については、「常磐大学・常磐短期大学就業規則」を拠りどころとしており、教育職員においてその特殊性を考慮して、別途「大学教員の勤務および服務規程」を規定している。教育職員の課題としては、依然として授業科目の担当コマ数が、責任コマを超えて担当している者もあり、負担が大きくなっている。</p> <p>・教職員の健康管理、就業環境の改善：</p> <p>2009年度における教職員を対象とした定期健康診断の受診状況は、個別で人間ドック等による検診受診者も含め、対象者329名中282名(85.7%)となっており、初めて80%台に上った。またインフルエンザの予防接種は、昨今のインフルエンザの大流行の影響で医療機関からの協力を得られず、予防接種の機会を提供することが出来なかった。</p> <p>就業環境については、PCを使用し作業を行う者が多い現状を鑑み、産業医による近距離視力検査および健康相談を実施した。</p> <p>【特記事項について】</p> <p>2006年6月には「危機管理規程」、2007年9月には「公益通報等に関する規程」を制定し、危機管理体制や公益通報制度を整備したほか、2009年6月には「財務情報の公開に関する規程」を制定し、適切な情報開示に努めている。</p>
<p>今後の方針・対策・規程化 etc</p>	<p>【法人組織の管理運営体制について】</p> <p>・学校業務が多様化・複雑化するなか、理事長が引き続き適正かつ適切にリーダーシップを発揮できるよう意思疎通や意思決定の効率化・迅速化に努める。</p> <p>・関連法規および関連規程に則り、適切な会議運営に努める。</p> <p>・関連規程に則り、適切な会議運営に努める。</p> <p>・監事の職務が適切に執行されるよう、監事の業務支援体制や仕組みの強化を推進する。</p> <p>・関連法規および関連規程に則り、適切な会議運営に努める。</p> <p>【事務組織について】</p> <p>・組織機構については、多様化・複雑化する学校業務に適切に対応すべく、点検評価を行い必要な措置を講じる。</p> <p>・日本私立大学連盟研修プログラム等へ継続的派遣を行うなど、大学事務職員としての専門性と能力の向上を図る。さらには、短期海外研修派遣制度の創設に向けて、規程の整備等をすすめて、より検討を進めていく。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・組織の新設や改編にあたっては、関連規程の整備が遅滞なく行われるように努める。 ・関連規程に則り、適切に各業務が執行されるよう、点検評価と改善に努める。 ・スタッフ・ディベロップメント等を通じて、個々の事務職員の更なる資質の向上に努める。
<p>【人事管理について】</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の就業について： <p>制定後かなりの時間が経過し、現在の運用と異なる点が多い規程について、規程の洗い出しをするとともに確認を行い、現状に即した内容へと改正を進めていく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の健康管理、就業環境の改善： <p>定期健康診断の受診状況を全国平均より多くすることを目標に、健康診断の周知方法について、再度検討をおこない、更なる受診率の向上を実現する。</p>
<p>【特記事項について】</p>
<p>危機管理や情報公開等については、関連規程に則り、適切に対応する。</p>

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
委員会名	事務系自己点検・評価実施委員会	報告者	会計経理課統括、寄付資産運用課統括、施設設備課統括、理事長室長
評価領域	財務		
評価項目	財務運営について / 施設設備の管理について / 特記事項について		
点 検 ・ 評 価 報 告	【財務運営について】		
	・短期大学の2009年度の予算編成については、共通予算会議、短期大学教育予算委員会常任理事会および理事会において審議承認され、所定の手続きが諸規程に則り取り扱われた後に、それぞれの部局へ予算が配賦されている。		
	・当該予算執行については、各部局からは見積書、納品書、請求書が添付された執行伺いが会計経理課に提出され、会計経理課において証ひょう書類に基づき経費は執行されている。		
	・財務情報の公開についても私立学校法第47条の規定により、web上で公開されているほか、「学校法人常磐大学要覧」「常磐大学学報」等印刷物においても掲載されている。		
	・寄付金・学校債について： 諸澤幸雄奨学金制度を創設し2010(平成22)年4月より、その実施を予定している。当制度の資金確保のため2009(平成21)年11月より、学校法人常磐大学100周年記念事業募金として趣意書を作成し募金活動を開始した。寄付金の依頼先として、本法人設置する学校の卒業生、在校生の保護者、教職員(退職者を含む)の他、本法人の取引先企業等を対象にして、幅広く寄付を募っている。なお、学校債の発行は未実施であり、現時点でその予定もない。		
	【施設設備の管理について】		
	・2009(平成21)年6月1日の改正消防法に伴い、本学においても「防災管理者」の選任が義務づけられ災害に備えることとなった。		
	・防犯体制については、現状特に問題となる事件・事故は発生していないが、今後も事件・事故のないキャンパスづくりに努める。		
	・省エネ対策としては、現状低ランニングコストの空調設備の順次導入や冷暖房温度の適正化を呼びかけている。		
	【特記事項について】		
	監事の業務支援・内部監査に関する機能の強化を図るため、2008年12月、新たに「監査室」を設置するとともに、2009年1月には「内部監査規程」を制定し、内部監査		

	<p>体制の整備を図った。また、2009年3月には監査業務を掌る「監査役」配置して監査機能の強化を図っている。このほか、2009年度中には、監事と公認会計士との連絡会（意見交換会）について、（2010年）2月と3月に1回ずつ開催することを予定しており三様監査体制の構築に向けた取り組みを推進している。</p>
今	<p>【財務運営について】</p>
後	<p>・短期大学におけるステークホルダーに対し、志願者およびその保護者が求める情報、</p>
の	<p>学生納付金の使途情報、さらに企業等就職先の人事担当者あるいは地域社会の求める</p>
方	<p>情報について、志願者増あるいは就職率向上のために直接的・間接的に結び付く情報</p>
針	<p>開示を検討する。</p>
・	
対	<p>・広報課、アドミッションセンター、学生支援センターと協議を図り、2009年度の開示</p>
策	<p>方法に加え、過去数年間の経年推移の状況、各勘定科目の平易な説明、財務比率を用い</p>
・	<p>た簡易説明等を行うなど、ステークホルダーの理解を更に深める工夫していく。</p>
規	<p>・100周年記念事業募金としての寄付募集は、2013(平成25)年まで実施予定であるが、</p>
程	<p>諸澤幸雄奨学金制度の充実および継続のため、継続的に寄付募集活動を実施していく。</p>
化	<p>【施設設備の管理について】</p>
etc	<p>・防災については、火災あるいは大規模災害に備えて「総合的な防災体制の確立」を</p>
	<p>目標として、教職員・学生が一体となって取り組める仕組みづくりを推進する。</p>
	<p>・防犯対策としては、今後とも構内の巡回をこまめに行い、犯罪を未然に防ぐキャン</p>
	<p>パスづくりを進めていく。</p>
	<p>・省エネ対策は、現状、ソーラーシステム・エコガラス・屋上緑化等々数多くの対策</p>
	<p>が考えられるが、そういった中で本学が実現可能な方法を検討し、順次すすめていく。</p>
	<p>【特記事項について】</p>
	<p>引き続き監事の業務支援や内部監査に関する機能の強化を推進し、法人の管理運営</p>
	<p>の効率化・適正化に努める。</p>

2009 (平成 21)年度 自己点検・評価事項に関する報告			
部署名	短期大学自己点検・評価実施委員会	報告者	委員会事務局
評価領域	改革・改善		
評価項目	自己点検・評価について / 自己点検・評価の教職員の関与と活用について / 相互評価や外部評価について / 第三者評価（認証評価）について		
点検・評価報告	2008(平成 20)年度受審 第三者評価結果の公表に関して		
	第三者評価結果の公表については、『2008(平成 20)年度 常磐短期大学自己点検・評価報告書』を作成し、2009年6月2日開催の本委員会の議を経て、学内外へ配付した（配付先については、同報告書 117 頁参照）。併せて、本学HPへも掲載済みである。		
	（ http://www.tokiwa.ac.jp/tokiwa/report/2007/jaca/index.html ）。		
	2009(平成 21)年度の自己点検・評価活動に関すること		
	当年度は、第三者評価結果（「学校法人常磐大学 常磐短期大学機関別評価結果」財団法人短期大学基準協会、平成 21 年 3 月 24 日）を踏まえながら、“全学的な自己点検・評価体制の明確化”という点からも、できるだけ多くの教職員による検証等を行った。これは、第 2 回目の相互評価に向けての自己点検・評価活動の一端も併せ持つ。		
	事務系自己点検・評価実施委員会作成の『2009(平成 21)年 5 月 1 日作成標準日 常磐大学 常磐短期大学 大学基礎データ』（印刷物・HP）については、2010 年 3 月に公表予定。		
今後の方針・対策・規程化 etc	（以下は、2009 年 6 月 2 日開催 本委員会資料「認証評価機関による認証評価と本学の自己点検・評価（目安）」による。）		
	相互評価について ：2011（平成 23）年度実施予定。		
	・2010（平成 22）年度 短期大学基準協会へ相互評価データを提供し、相手校を募る。		
	・学内の自己点検・評価の体制を充実させ、相互評価用自己点検・評価報告書作成等相互評価の準備に向ける。		
	第三者評価（二回目受審） ：2014（平成 26）年度に、実施に向け準備を行う予定。		
	「短期大学自己点検・評価実施委員会細則」の改正については、「全学自己点検・評価委員会規程」改正にあわせて行う予定。		